

株主、投資家のみなさまへ

# TOMOE REPORT Vol.39

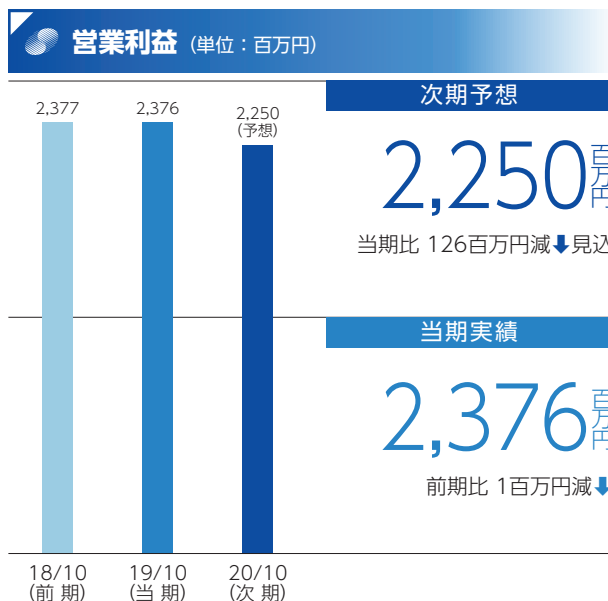
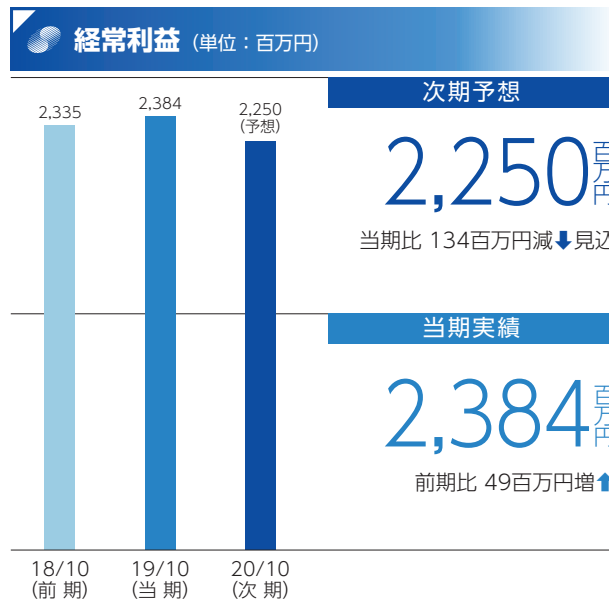
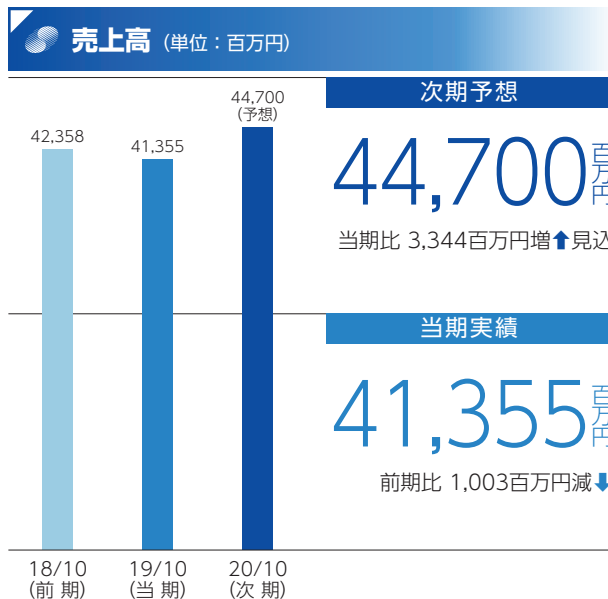
第90期 決算のご報告

2018年11月1日 ▶ 2019年10月31日

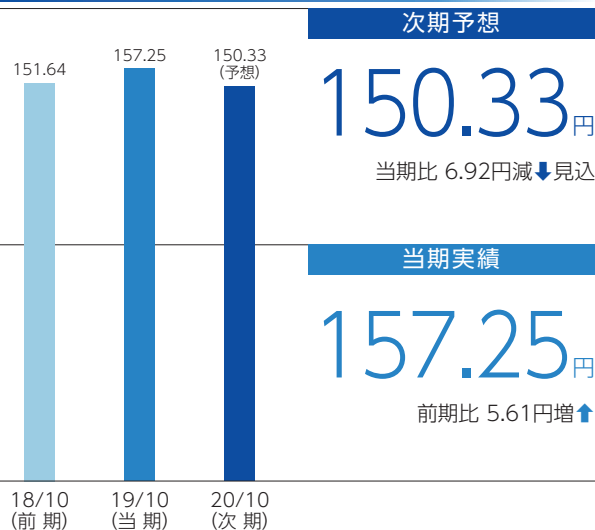
## CONTENTS

連結決算ハイライト	01
トップメッセージ	03
担当役員が語る	07
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

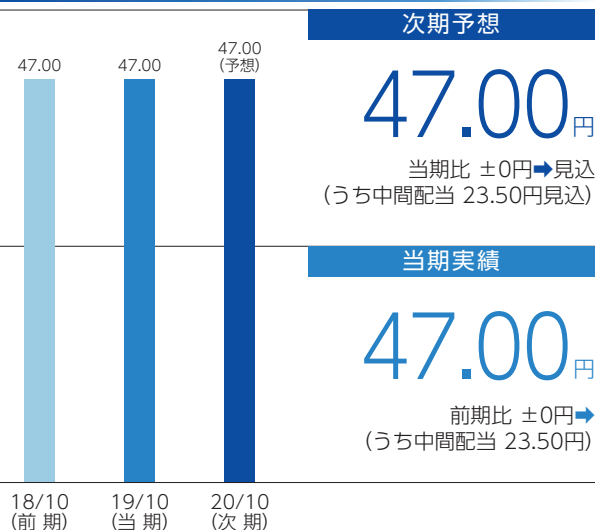
# 連結決算ハイライト



## 1株当たり当期純利益 (単位: 円)



## 1株当たり配当金 (単位: 円)



## 決算のポイント

### 売上高

機械事業が増収となったものの、化学品事業が減収となったため、前期比2.4%減の413億55百万円となりました。

次期は、両事業ともに増収を予想しており、当期比8.1%増の447億円を見込んでおります。

### 営業利益

機械事業が増収により増益となった一方、化学品事業が減収を背景に減益となったため、全体では前期比0.1%減の23億76百万円となりました。

次期は、化学品事業では増収による増益を見込む一方、機械事業では利益率が低い機械の販売増加および収益性の良い海外向け部品修理販売の減少による利益率の低下を見込むことから、当期比5.3%減の22億50百万円を見込んでおります。

### 経常利益

前期に計上した貸倒引当金繰入額が無かったことなどから営業外費用が減少したため、前期比2.1%増の23億84百万円となりました。

次期は、営業外収益・費用を見込まないことから、当期比5.6%減の22億50百万円を見込んでおります。

### 親会社株主に帰属する当期純利益

前期に計上した連結子会社固定資産の減損処理が無かったことなどから、前期比3.7%増の15億69百万円となりました。

次期は、特別損益等の特殊要因を織り込まないため、当期比4.4%減の15億円を見込んでおります。

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社2019年10月期（2018年11月1日から2019年10月31日まで）が終了いたしましたので、ここに決算と主要項目につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **山本 仁**



Q

当期の事業環境と経営成績について  
お聞かせください。

A

国内景況は、輸出はやや低調だったものの、個人消費や設備投資、公共投資などの堅調に支えられ、緩やかな回復傾向が続きました。海外では、米中貿易摩擦の激化やスマートフォン等の低調による半導体市場の悪化が継続しています。

このような環境の中、当社グループの機械事業は、海外および国内民需向け部品・修理の販売が好調だった

ことなどから、売上高は前期比0.7%増となりました。営業利益については、収益性の良い部品販売や修理サービスが増加したことを受け、前期比63.7%の大幅増益となりました。一方、化学品事業では、半導体市場の冷え込みの影響が大きく、売上高は前期比3.5%減、営業利益は前期比21.3%減となりました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高が前期比2.4%減、営業利益は0.1%減、経常利益は前期比

2.1%増、親会社株主に帰属する当期純利益は3.7%増となりました。

Q

中期経営計画「Challenge For Change」の総括をお願いします。

A

2017年10月期から3期にわたって取り組んできた中期経営計画「Challenge For Change ～変革への挑戦～」は、当社グループを取り巻く経営環境が大きく変化する中で、今後さらなる成長、飛躍を実現するために必要な収益基盤の強化、経営効率の向上などに取り組んできました。残念ながら米中貿易摩擦の影響などから連結売上高は目標に掲げた460億円に届かなかったものの、営業利益については当初計画の20億円を大幅に上回ることができました。

機械事業の成果をいくつかご紹介しますと、これまで大手企業が中心だった機械の販売先が中堅企業などに大きく広がったこと、新製品となるディスク型遠心分離機の投入、生産改革プロジェクトによる生産効率の向上への取り組みなどが挙げられます。化学品事業では、2018年4月に新設した「開発部」が中心となって、新たなビジネスや商材の開拓に懸命に取り組んでくれました。イタリアの半導体製造装置メーカーであるLPE社のエピタキシャル成膜装

置の日本における代理店契約を締結できたことは、その代表的な成果です。

次期中期経営計画につきましては、現在（2019年12月末）最終的な詰めの作業を行なっているところですが、終了した計画のテーマが変化への挑戦であったのに対し、新計画は、その変化を土台として、新たな未来へと挑戦していくことを打ち出したいと考えています。数値目標に関しても、かなり高い水準を目指すつもりです。従来は決算発表と同時に中期経営計画も公表しておりましたが、今回は高い目標を実現するための具体的な戦略の立案に多少時間を要しております。時間をかけた分、具体的で説得力のある計画を皆様にお示ししたいと考えておりますので、何卒ご理解いただきたくお願いいたします。

Q

次期の事業計画と業績見通しについてお聞かせください。

A

国内景況は緩やかな回復基調が続くことが見込まれる一方、米中貿易摩擦の激化などによる世界経済の下振れリスクに対しては引き続き注視が必要です。次期の機械事業では、中国で大型案件の販売を見込んでおり、これによって海外での機械の売上は当期の倍以上に拡大する見通しです。この



案件の獲得に向けて戦略的な価格を打ち出したため、機械事業の営業利益は一時的に減少する見通しですが、長期的には、収益性が高く継続した収入となるメンテナンス・修理サービスにつながるため、多少の利益率の低下は甘受すべきだと判断しています。一方化学品事業では、化成品分野の熱硬化樹脂、機能材料分野や電子材料分野の半導体製造装置向け材料等の販売の伸びを見込むことなどから、増収増益となる見通しです。

次期の具体的な取り組みとしては、中期経営計画の発表に先行する取り組みとして、機械事業では、中国工場の再編に着手しています。上海市内にあった

巴栄工業機械（上海）有限公司の工場が手狭となったことから、新たに近隣に巴栄機械設備（太倉）有限公司を設立し、上海工場の機能を移転する作業を進めています。生産能力を増強するとともに、現地での大型機械のメンテナンス拠点としても活用していく方針です。化学品本部では、天然鈇産物を専門に取り扱う「鈇産部」を新設しました。鈇産物はこれまで「工業材料部」がカバーしてきましたが、建材や樹脂の原料、添加剤として様々な分野で利用され、取扱量が拡大してきたことから、専門部署として独立させました。今後人員を増強し、さらに専門性の高い営業活動を展開したいと考えています。

次期の連結業績については、売上が当期比8.1%増、営業利益が5.3%減、経常利益が5.6%減、親会社株主に帰属する当期純利益が4.4%減と予想しています。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。



当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、財務体質と経営基盤の強化のための内部留保の充実を図りつつ、連結業績や中期的なグループ事業戦略などを総合的

に勘案し、適正かつ安定的な配当を実施することを利益配分の基本方針としております。この方針に基づき、当期末の配当金につきましては、1株当たり23円50銭とさせていただきます。中間配当23円50銭と合わせ、年間配当金は前期と同額の1株当たり47円となります。

中期経営計画「Challenge For Change ～変革への挑戦～」に取り組んだ3年間は、次の飛躍を見据えて我慢に我慢を重ねるといいたいへん苦しい期間でした。そのおかげで、今後につながる非常に大きな成果をいくつも残すことができ、当社は相当の力をつけることができましたと自負しております。次の中期

経営計画では、これまで積み重ねてきたものを土台として、収益を着実に拡大していくことを見込んでおり、株主の皆様からお寄せいただいているご期待に対しても、これまで以上の姿勢でお応えしてまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

次期中期経営計画は策定次第、当社ホームページに公表いたします。

## 新任役員のご紹介

2020年1月30日付で就任いたしました新しい役員をご紹介します。

**氏名** ふじい おさむ  
藤井 修

**役職名** 取締役総務部および業務部担当 兼 総務部長

**生年月日** 1963年12月10日

**今後の抱負** 会社を取り巻く環境が今まで以上のスピードで変化していく中、その変化に速やかかつ適切に対応し、当社の企業価値の向上に貢献できるよう精進してまいります。







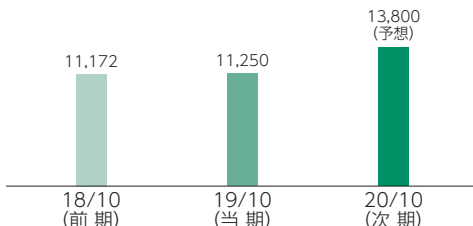
## 機械事業



常務取締役  
機械本部長 本間義人

売上高 **11,250** 百万円

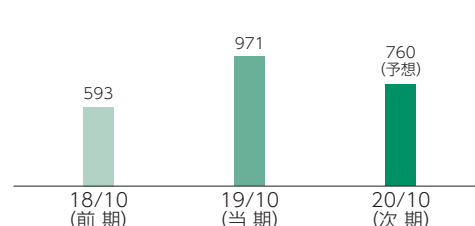
(単位：百万円)



営業利益

**971** 百万円

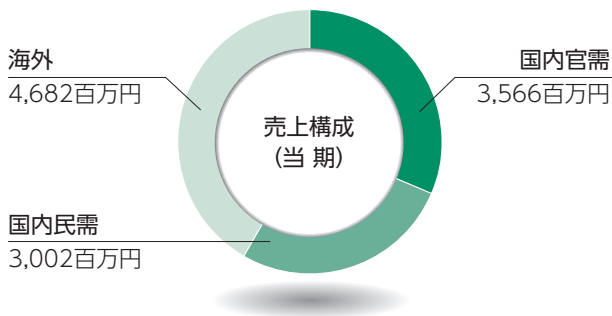
(単位：百万円)



## 業績

2019年10月期の売上高は国内官需分野の減収に対して、海外分野での大幅な増収があったため、前期比0.7%増の11,250百万円となりました。分野別に見ますと、国内官需分野では、機械、装置・工事、部品・修理のいずれにおいても前期を下回り全体では前期比19.6%の減収となりました。国内民需分野では、半導体関連向けの需要が一段落したことと化学工業分野の低

調な推移が影響し、機械販売および装置・工事が減収しましたが、部品・修理については化学工業向けや電力業界向けが順調で、全体では前期比1.1%の増収となりました。海外分野につきましては、機械販売で上期までは欧州向けおよびアジア向けが増加していましたが、通期では北米市場向けの伸び悩みがありました。加えて装置・工事ではベトナムをはじめとした東南アジア向けや炭化装置関連での売上減少がありました。部品・修理において中国・アジア地域向け受注が期中を通じて好調に推移し大幅増となり、全体で前期比24.3%の増収となりました。営業利益については、利益率の高い部品・修理の売上増により前期比63.7%と大幅増の971百万円となりました。





## 次期の展望

2020年10月期の売上高は当期を22.7%上回る13,800百万円、営業利益は同21.8%下回る760百万円を見込んでいます。

国内官需分野では部品・修理において減収を見込んでおりますが、機械販売および装置・工事では大都市圏を中心に補修工事の受注増を見込むことで増収を計画しております。国内民需分野は装置・工事で当期にあった半導体業界向け砥粒回収装置の販売がなくなる見込みですが、部品・修理でほぼ当期並みの販売を見込んでおり、機械も化学工業、重工業向けなどで堅調な販売を計画していることから、国内民需全体では、当期並みの数値を計画しております。海外分野は当期に好調であった中国・アジア向け部品・修理販売においては減収するものと見込んでおりますが、機械販売で中国化学工業向けの大口案件を受注したことを追い風に海外全体で1,303百万円の増収を計画しております。また、海外グループ会社においては、Tomoe Engineering USA, Inc.を軸とした、北南米での医薬・食品、化学工業向け遠心分離機の販売を見込みます。中国では、巴栄機械設備(太倉)有限公司を新たに立ち上げ、中国国内の堅調な塩化ビニール向け遠心分離機の需要に対応した体制をより一層強化する計画をしております。その他アジア地域においては食品や化学工業向け遠心分離機の販売、欧州では化学工業向け遠心分離機増設計画の販売を見込んでおり、引き続き積極的な営業活動を推進いたします。

### 次期業績予想

売上高	▶	13,800百万円 (当期比 22.7%増↑)
営業利益	▶	760百万円 (当期比 21.8%減↓)

## 中期展望

2020年10月期は第12回中期経営計画の初年度となります。機械事業としては、海外ビジネスの新たな展開と国内販売の拡大および生産体制の改革に取り組んでまいります。海外ビジネスの新たな展開としてアジア地域における排水処理分野や、Tomoe Engineering USA, Inc.を軸とした北南米市場の開拓を進めます。また、中国においては巴栄機械設備(太倉)有限公司を軸にメンテナンス拠点としての強みを生かした営業展開を進め、さらなる市場の開拓を図ります。国内販売については、官需向けとして低動力型高効率遠心分離機の一層の拡販と高機能回転加圧脱水機の市場投入、民需向けとしてディスク型遠心分離機の拡販など新たな分野への展開をいたします。生産体制の改革については、技術力の向上、生産性向上および設計製作の見直しと合理化によるコストダウンを推進してまいります。営業部門、生産部門が一体となり機械事業の業績向上に努め収益の拡大を図ります。



ディスク型遠心分離機

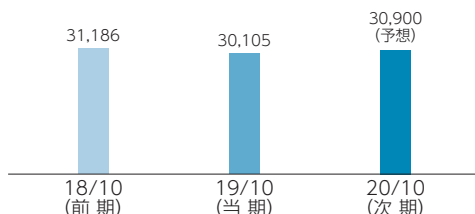


## 化学品事業

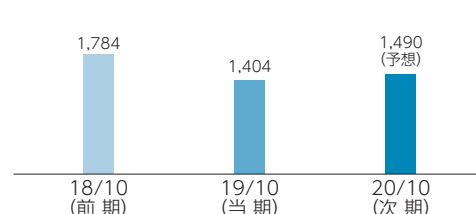


常務取締役  
化学品本部長 玉井章友

売上高 **30,105** 百万円  
(単位：百万円)



営業利益 **1,404** 百万円  
(単位：百万円)

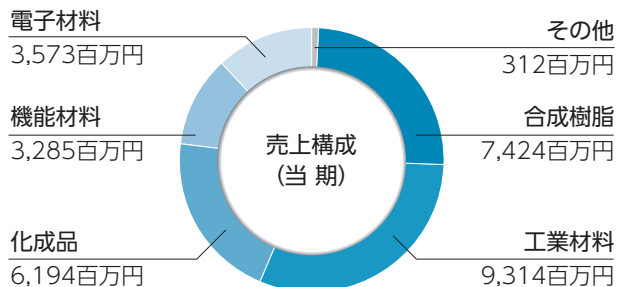


### 業績

2019年10月期は、国内工業材料分野の住宅・建設用途向け材料の販売が増加したものの、半導体市況の悪化や米中貿易摩擦による中国経済減速の影響を受け、国内外合成樹脂分野の原料、電子材料分野の半導体製造用途向け搬送用商材、機能材料分野の半導体製造装置向けセラミックス製品を中心に販売が減少したため、売上高は前期比3.5%減の30,105百万円、営業利益は前期比

21.3%減の1,404百万円と減収減益の厳しい結果となりました。

商品グループ別に見ますと、工業材料関連は住宅・建築用途向け各種鉱産物、金属向け添加剤、樹脂向け難燃剤など幅広い分野で堅調に推移したことから前期とほぼ同額となりました。化成品関連はインキ・塗料関連向け有機原材料は好調に推移しましたが、紫外線硬化樹脂の販売が減少したことから前期比では1.7%の減収となりました。半導体不況の影響を受け、機能材料関連では半導体製造装置用セラミックス製品、パワー半導体用放熱材料などが軒並み低調に推移したこと、また一般工業用材料の販売も減少したことから前期比では4.7%の減収となり、電子材料関連も半導体後工程に使用されるツール類や搬送材の販売が減少し、前期比では8.3%の減収となりました。また、米中貿易摩擦の影響を受け、合成樹脂関連は国内でのエンジニアリングプラスチック樹脂が低迷し、海外でも巴工業(香港)有限公司経由の海外ユーザー向け汎用樹脂販売や星際塑料(深



圳) 有限公司で製造している樹脂コンパウンドが輸出減少となり、低調に推移したことから前期比では5.6%の減収となりました。

## 次期の展望

2020年10月期は、当事業を支える既存商材の販売増を軸とし、これに加えて新規商材の開発、拡販および海外向け輸出や三国間貿易の増加を計画し、売上高については当期比2.6%増の30,900百万円、営業利益については当期比6.1%増の1,490百万円としました。

日本国内の景気動向は消費税増税後の景況感の悪化、海外では米中貿易摩擦の継続、英国の欧州連合離脱問題など日本に影響を与える大きな経済リスクが未だ高い水準で推移していることから先行きに不透明さが残り、今後の見通し予測が難しいところです。当期は半導体不況による影響が業績の下振れ要因となりましたが、半導体市況は回復基調に転じ始めてきたことから半導体業界向け商材販売も回復してくるものと想定しています。当事業ではこれまで業績に貢献してきた工業材料部を分割し、新たに鉱産部を新設いたしました。これにより機動力アップときめ細かい営業サポートを実現し、販売増加に結び付けてまいります。また、各部門においても新規商材の開拓・拡販を念頭に活動を行ってまいります。一方、海外におきましては、中国華南地区では巴工業(香港)有限公司、巴恵貿易(深圳)有限公司による商社活動、星際塑料(深圳)有限公司による樹脂コンパウンド製造など、各社の強みを合わせ、三位一体となって取扱い拡大を図ってまいります。また、タイのTOMOEO Trading (Thailand) Co.,Ltd.では拠点とするタイ国内に留まらず東南アジア諸国への拡販

を目論むことで事業全体の底上げを図ります。これら施策により化学品事業の業績拡大に努めてまいります。

### 次期業績予想

売上高	▶	30,900百万円	(当期比 2.6%増↑)
営業利益	▶	1,490百万円	(当期比 6.1%増↑)

## 中期展望

2020年10月期からスタートする第12回中期経営計画では、当事業としては海外ビジネスの拡大と各部門の強化をテーマに取り組んでいく所存です。海外ビジネスの拡大は、TOMOEO Trading (Thailand) Co.,Ltd.を軸に周辺国への展開を模索するほか、開発部を中心に東欧、ロシア、アフリカへのビジネス進出および更なる商材開発を目指した事業展開を推進します。中国深圳におけるコンパウンド事業に関しては、新規・既存顧客向け製品の量産化と高付加価値製品のシェアアップに注力し、経営改善と併せて事業の拡大を目指します。国内においては各分野で新規市場開拓と商品開発を積極的に推し進めます。特に持続的な企業価値の向上を目指すためSDGsへの取り組みに注力し、その中でも環境に着目した取り組みを行います。環境は日本に留まらず世界的に注目されていることから、当事業でも環境をキーワードに新商材の探索と販売展開を行っていく所存です。

案件開拓が芽を出すのは時間が掛かる場合もありますが、それまでは既存商材の着実な販売で足元を固めつつ、各種投資も併せて事業の拡大を図ってまいります。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (18/10)	当期末 (19/10)	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	28,823	30,260	1,436
固定資産	8,507	8,810	302
有形固定資産	5,042	5,275	233
無形固定資産	109	129	19
投資その他の資産	3,356	3,405	49
資産合計	37,331	39,070	1,739
<b>負債の部</b>			
流動負債	8,790	9,564	773
固定負債	665	645	△19
負債合計	9,455	10,209	753
<b>純資産の部</b>			
株主資本	27,134	28,224	1,090
資本金	1,061	1,061	0
資本剰余金	1,483	1,483	0
利益剰余金	24,953	26,043	1,090
自己株式	△363	△363	0
その他の包括利益累計額	741	636	△105
その他有価証券 評価差額金	433	439	6
繰延ヘッジ損益	0	1	1
為替換算調整勘定	186	83	△102
退職給付に係る調整累計額	122	112	△10
純資産合計	27,876	28,861	985
負債及び純資産合計	37,331	39,070	1,739

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (17/11~18/10)	当期 (18/11~19/10)	増減額
売上高	42,358	41,355	△1,002
売上原価	33,122	32,006	△1,116
売上総利益	9,235	9,349	113
販売費及び一般管理費	6,858	6,973	115
営業利益	2,377	2,376	△1
営業外収益	80	81	1
営業外費用	122	73	△49
経常利益	2,335	2,384	49
特別損失	24	5	△18
税金等調整前当期純利益	2,311	2,378	67
法人税等	798	809	11
当期純利益	1,513	1,569	55
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,513	1,569	55

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (17/11~18/10)	当期 (18/11~19/10)	増減額
当期純利益	1,513	1,569	55
その他の包括利益	△196	△105	91
その他有価証券 評価差額金	△117	6	124
繰延ヘッジ損益	△2	1	4
為替換算調整勘定	△28	△102	△74
退職給付に係る調整額	△47	△10	37
包括利益	1,316	1,464	147
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	1,316	1,464	147

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (17/11~18/10)	当期 (18/11~19/10)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,191	3,868	1,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	△281	△544	△263
財務活動によるキャッシュ・フロー	△449	△478	△29
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△51	△51
現金及び現金同等物の増減額	1,460	2,793	1,332
現金及び現金同等物の期首残高	7,893	9,354	1,460
現金及び現金同等物の当期末残高	9,354	12,147	2,793

## ホームページのご紹介

当社ではホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、タイムリーな情報提供に努めております。是非ご活用ください。



URL <https://www.tomo-e.co.jp>

巴工業

検索

## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当期 (18/11~19/10)	株主資本				株主資本 合計	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
2018年11月1日残高	1,061	1,483	24,953	△363	27,134	433	0	186	122	741	27,876
当期変動額											
剰余金の配当			△478		△478						△478
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,569		1,569						1,569
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						6	1	△102	△10	△105	△105
当期変動額合計	—	—	1,090	—	1,090	6	1	△102	△10	△105	985
2019年10月31日現在	1,061	1,483	26,043	△363	28,224	439	1	83	112	636	28,861

## 会社概要

商号	巴工業株式会社
本社所在地	東京都品川区北品川五丁目5番15号
設立	1941年5月29日
資本金	10億6,121万円
従業員数	730名(連結)、399名(単体)
主な事業内容	<p>機械事業 遠心分離機はじめ各種分離機および応用装置・関連機器の製造・販売ならびに一般機器・装置類の販売</p> <p>化学品事業 合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびにこれらの関連製品・加工品の輸出入および販売</p>
ホームページ	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>

## 役員一覧 2020年1月30日現在

代表取締役社長	山本 仁
常務取締役	本間 義人 玉井 章友
取締役	篠田 彰鎮 中村 政彦 矢倉 敏明 伊藤 勝彦 東 徹行 佐田 淳 藤井 修
取締役(監査等委員)	深沢 正義 村瀬 俊晴 (社外取締役) 中村 誠 (社外取締役) 蓮沼 辰夫 (社外取締役)

## グループネットワーク

- 機械事業
- 化学品事業

昆山事務所  
 巴栄工業機械(上海)有限公司  
 巴栄機械設備(太倉)有限公司

星際塑料(深圳)有限公司  
 巴恵貿易(深圳)有限公司

TOMOE Trading (Thailand) Co.,Ltd.

巴工業(香港)有限公司  
 星際化工有限公司

ジャカルタ事務所

ソウル支店

巴工業株式会社本社  
 大阪支店  
 札幌営業所  
 仙台営業所  
 名古屋営業所  
 福岡営業所  
 サガミ工場  
 湘南工場

巴機械サービス株式会社  
 巴マシナリー株式会社  
 巴物流株式会社  
 巴ワイン・アンド・スピリッツ株式会社

Tomoe Engineering USA, Inc.

## 株式情報

発行可能株式総数	24,550,000株
発行済株式の総数	10,533,200株
株主数	10,490名

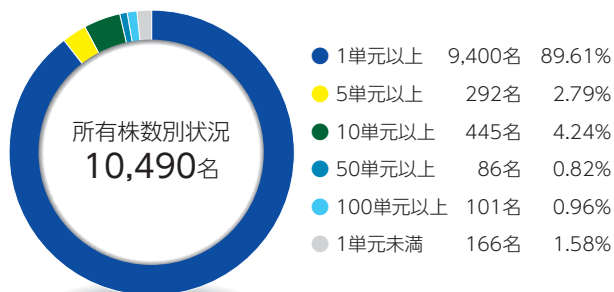
## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数(自己 株式を除く)に対する 所有株式数の割合(%)
(株)光通信	815	8.17
巴工業取引先持株会	504	5.05
佐良直美	406	4.07
野田眞利子	397	3.97
(株)みずほ銀行	392	3.93
山口温子	314	3.14
巴工業従業員持株会	267	2.67
(有)巴企画	245	2.46
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	209	2.10
竹内啓子	180	1.80

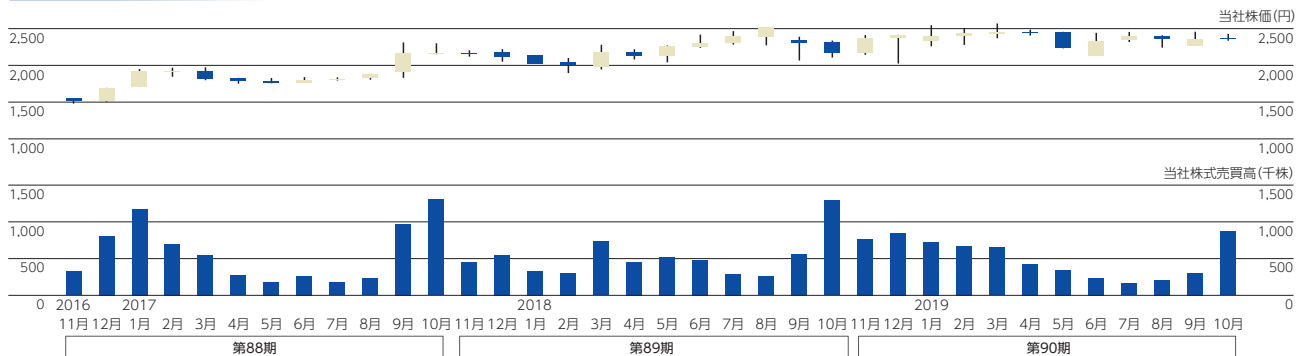
(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 上記のほか当社所有の自己株式554千株があります。

## 株式分布状況

● 個人・その他	5,763,425株	54.72%
● 証券会社	76,789株	0.73%
● 金融機関	1,926,100株	18.28%
● その他の国内法人	1,531,433株	14.54%
● 外国法人等	680,592株	6.46%
● 自己株式	554,861株	5.27%



## 株価チャート





## 株主メモ

決算期	毎年10月31日
証券コード	6309
1単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当 毎年10月31日 中間配当 毎年 4月30日
公告方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載アドレス	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)

### 株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的として株主優待制度を設けております。



#### 対象となる株主様

毎年10月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上保有の株主様

#### 優待内容

ワイン（当社関連会社取扱商品）1本を贈呈

#### 贈呈の時期

毎年12月下旬に送付



**巴工業株式会社**

〒141-0001  
東京都品川区北品川五丁目5番15号  
URL <https://www.tomo-e.co.jp>

本報告書には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



**UD FONT**